

名古屋市長河村の主張

○日本は、ギリシャと異なり資金余剰国

○2005年頃に日本の民間のバランスシートはおおよそきれいになるまで改善されたが、借入れて投資せず、貯蓄ばかりしている。その原因として、リチャード・クー氏は借金に対するトラウマ（バランスシート不況）と成熟社会の日本に魅力ある投資機会がふんだんにはないため、と分析している

○三面等価の原則。生産面からみても分配面からみても支出面からみても国内総生産は同じ値

○支出面からみたGDPは、最終消費支出（家計を含む民間＋政府）＋総固定資本形成（民間投資＋公共投資）＋財・サービスの輸出入を合計するが、財・サービスの輸出入は経常収支のこと。日本は、経常収支黒字国。国内資金に余剰が生じてしまう。もっと国内に投資して資金循環をよくしなければならない（経常収支黒字＝財政赤字）

○国や地方が、経済効果の高い投資案件を積極的に探し出して、それに投資をしていくことで、民間が持っている過剰な貯蓄を実態経済に回していく仕組みづくりが、今、最も必要なこと

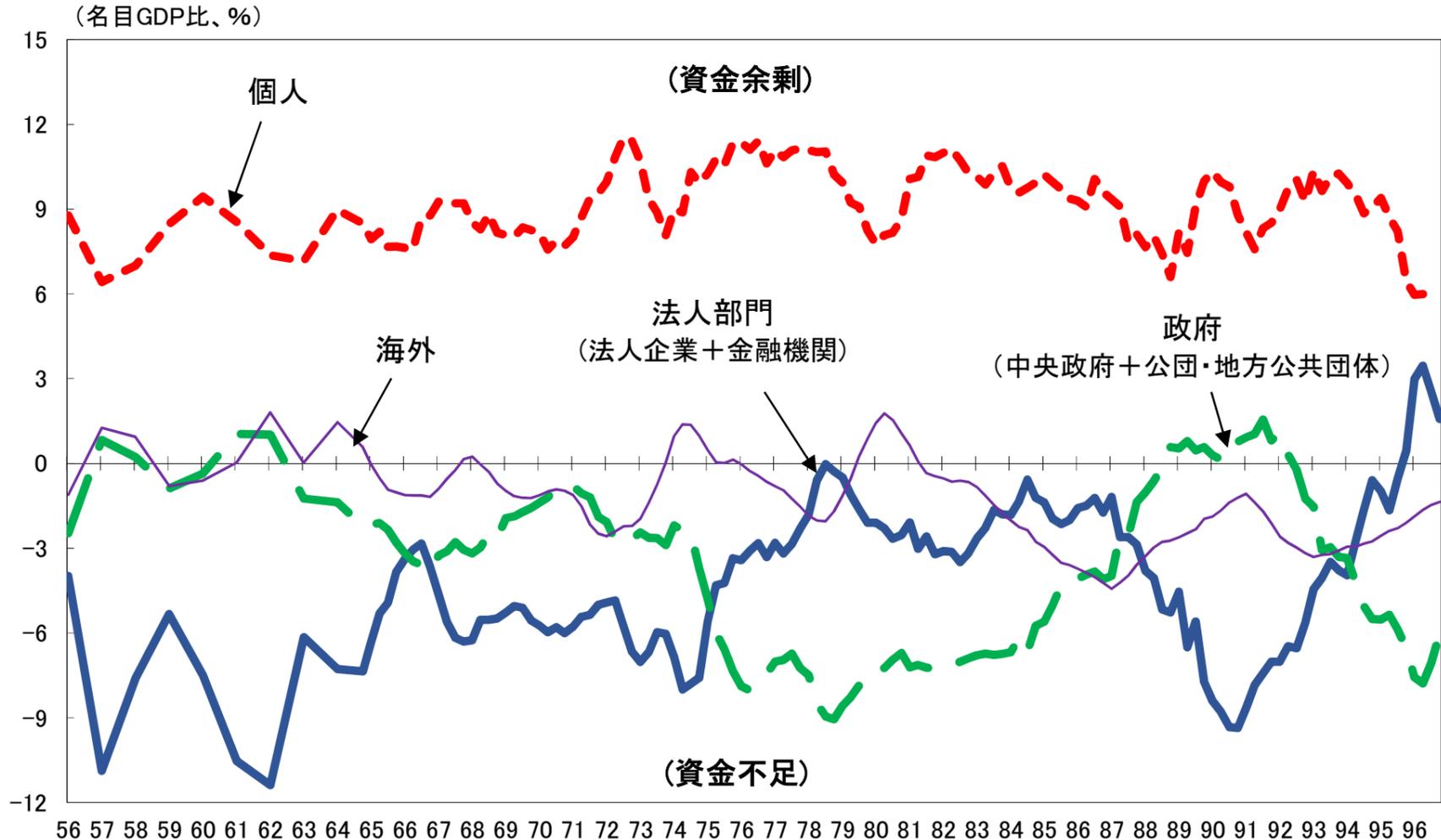
○投資のために起債を活用すると借金だというが、それは違っており、すべて国内で対応できる状況を借金とは言わない。返済すると国が細るものを借金という。

○財政赤字の大きさの判断は、民間貯蓄との対比の中でみなければ意味がない

○返済すると国が細るのは下のグラフにあるギリシャのこと。日本は資金余剰国

日本の資金循環(1956年～)

部門別にみた資金過不足の推移



(注)データの定義が現在の資金循環とは異なっており、1980年度以降の資金循環統計とは単純に比較できない。例えばこの図表では、「公団」が政府部門に含まれているが、1980年度以降の資金循環統計では、その多くが(公的)非金融法人企業に含まれる。
(出所)日本銀行「資金循環統計」、内閣府「国民経済計算」より野村総合研究所作成

日本が世界銀行から貸出を受けた31プロジェクト

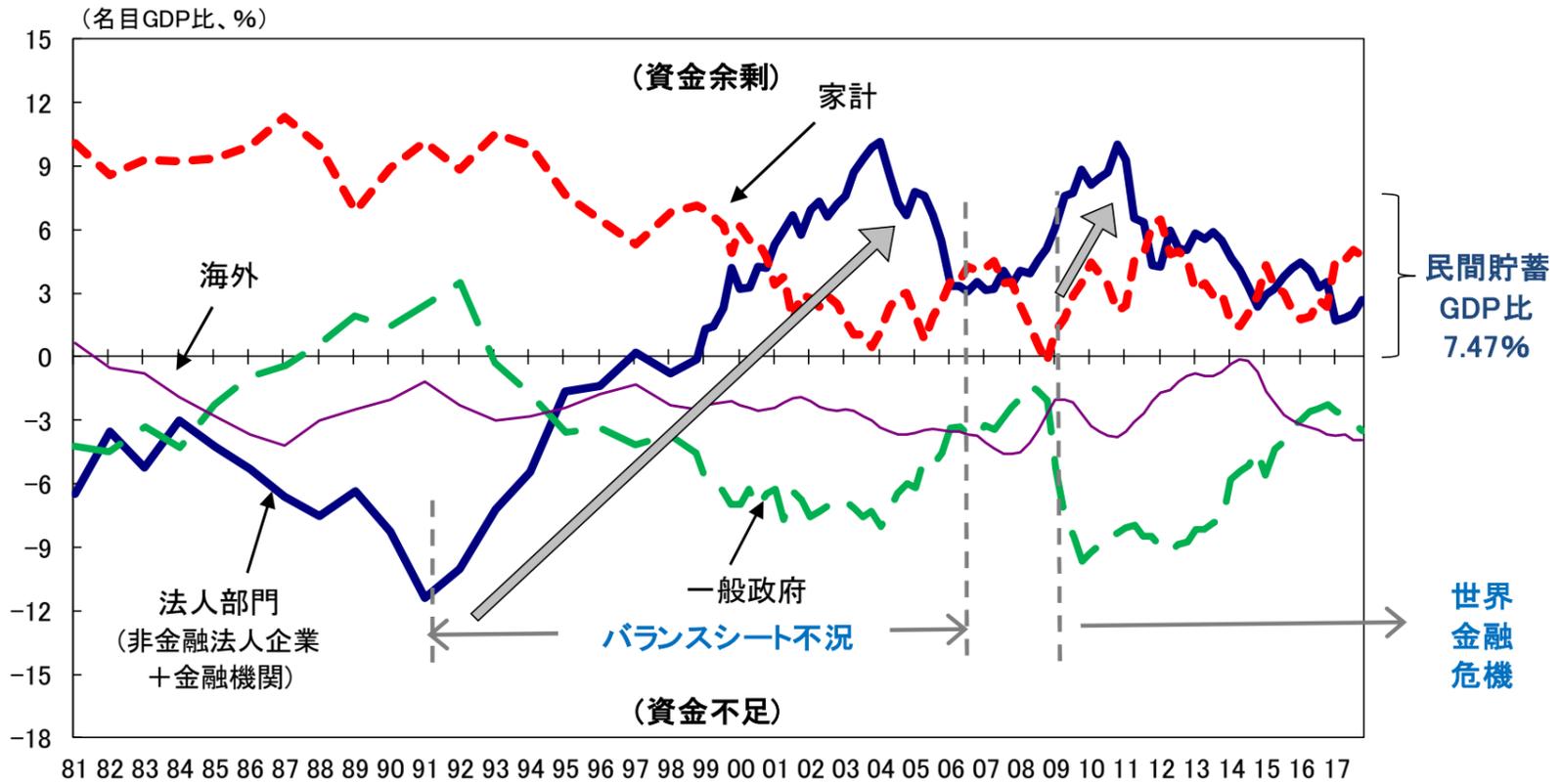
- 日本はサンフランシスコで対日講和条約が調印された翌年の1952年8月、世界銀行に加盟し戦後の復興に必要な多額の資金を借り入れた。
- 最初の貸出は、1953年に調印された火力電力プロジェクトに対するもので、以降、鉄鋼、自動車、産業、造船、ダム建設を含めた電力開発や道路・輸送セクターなどの建設への貸出が行われた。
- 日本が世界銀行から借入れた総額はおよそ8億6,300万ドル、当時の為替レート(1米ドル=360円)で3,106億8,000万円となった。

<主なプロジェクト>

調印式	対象事業	貸出額	受益企業
1953/10/15	四日市火力発電	750万米ドル	中部電力
1957/08/09	愛知用水事業	700万米ドル	愛知用水公団
1958/06/13	黒部第四水力発電	3,700万米ドル	関西電力(2次)
1961/05/02	東海道新幹線	8,000万米ドル	日本国有鉄道
1963/09/27 ～ 1966/07/29	東名高速道路(東京-小牧間)	30,000万米ドル	日本道路公団(3~6次)
1964/12/23	高速道路(羽田-横浜間)	2,500万米ドル	首都高速道路公団
1965/09/10	神戸市高速道路1号	2,500万米ドル	阪神高速道路公団

日本の資金循環

部門別に見た資金過不足の推移

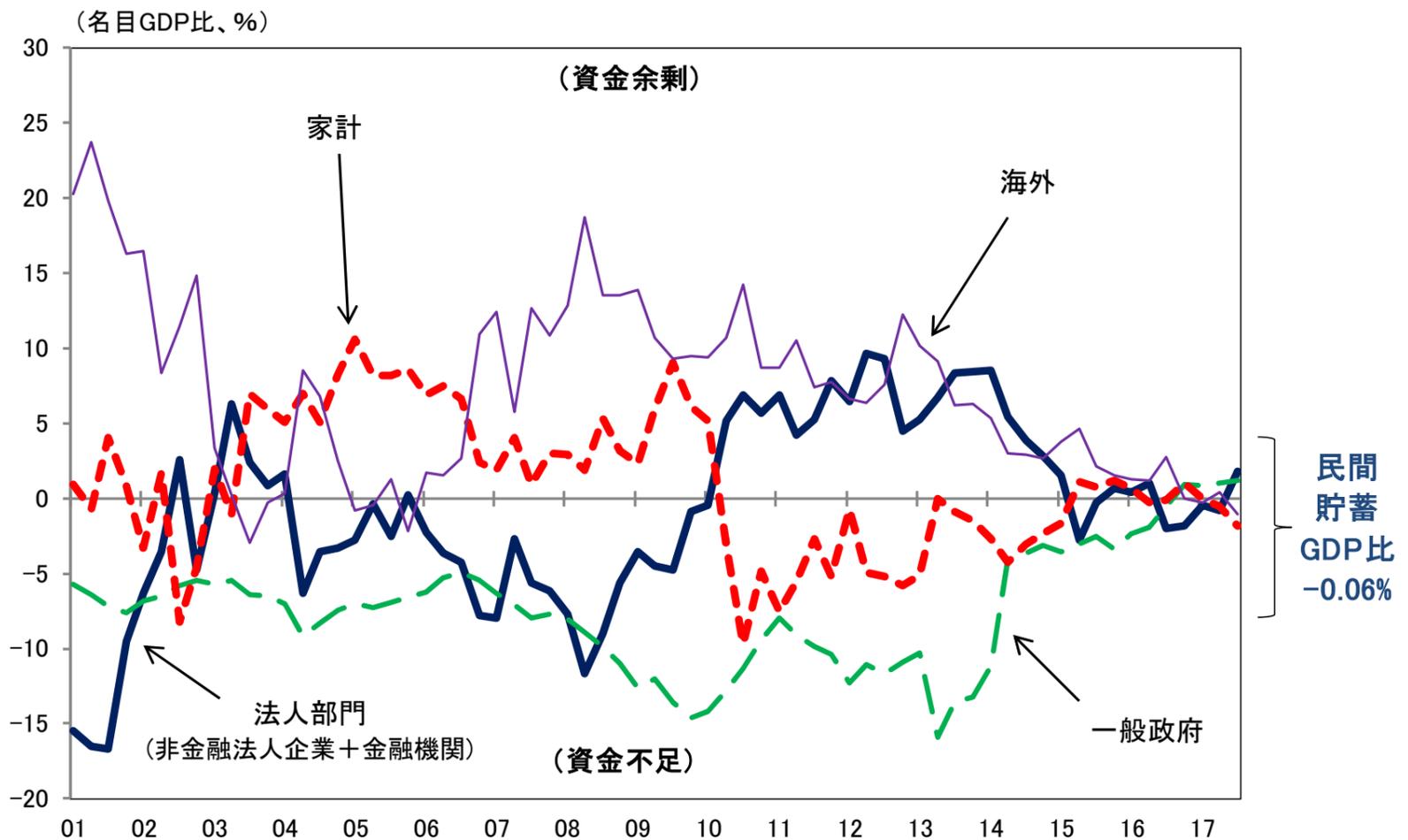


(出所) 日本銀行「資金循環統計」、内閣府「国民経済計算」

(注) 国鉄清算事業団・国有林野事業特別会計に関する債務継承(98年度)、郵政民営化(07年度)の影響を調整している。98年末以降の値は後方4四半期の移動平均であり、直近は2017年10-12月までの4四半期。

ギリシャの資金循環

部門別に見た資金過不足の推移



(注) 図表の値は後方4四半期の移動平均であり、直近は2017年7-9月までの4四半期。

(出所) Bank of Greece, Hellenic Statistical Authority, Greece のデータをもとに野村総合研究所作成